

# 令和3年度 都田中学校 学校評価

## I、令和3年度の取組

目指す生徒	目指す学校
「生きる力」を育むことで 心豊かで思いやりがある生徒 自ら学び高めあう生徒 心身ともに逞しく粘り強い生徒	命を尊重し合い、安全・安心な学校 夢に向かって一生懸命努力できる学校 保護者・地域と共につくる学校

### 2021年度 都田中学校の11の重点項目

- 1、ホストコト、ウイズコトに対応し、安全・安心できる環境・教育を推進する。
- 2、自他の「いのち」を尊重する教育を学校生活のあらゆる場面で推進する。  
(感染症対策、交通事故・けが・病気の減少、いじめ減少、人権尊重、全力・本気等)
- 3、すべての生徒が夢・志を育み、それらを叶えられる力を培う教育活動を推進する。
- 4、主体性を重視し、生徒が主役となり、生徒・教師が「好き」と言う教育活動とする。
- 5、一人一人を大切に自己肯定感を高め、生徒・教師が「誇り」に思ふ集団を作る。
- 6、主体的・対話的で深い学びへの授業改善を柱に、キャリア教育の視点やICT等の活用を取り入れながら、生徒がわかり、「好き」と言う授業を実践する。
- 7、不登校・いじめ0を目指し、治療的予防より教育的予防に力を入れ、発達支援教育の理念に基づく人権教育の充実を図る。
- 8、教育の情報化推進リーダによる教育の情報化を組織全体として推進する。
- 9、コミュニティ・スクールの充実による、社会に開かれた教育課程を推進する。
- 10、一人一人の気持ちに寄り添い、尊敬され憧れられる魅力ある教職員を育成する。
- 11、法令を遵守するとともに、働き方改革を推進して、子供と向き合う時間を確保する。

## II、自己評価

〈生徒の評価〉 〈保護者の評価〉

①自分には良いところがある	83.8%	90.2%
②自分はクラスの人の役に立っている	72.3%	80.1%
③友達や先生など、周囲の人とうまく関わっている	89.2%	89.1%
④周りの人に思いやりのある言葉を使い、思いやりのある態度で接している	93.1%	88.4%
⑤達成したい目標やかなえたい希望・夢がある	84.6%	64.1%
⑥毎朝、朝食を食べてから登校する	91.5%	90.9%
⑦家族や地域の方、友達や先生に気持ちの良いあいさつをしている	95%	85.1%
⑧家庭学習をしっかりと行っている	75.8%	59.1%
⑨学校は便りやHP等を通じて、活動の様子や情報等を発信している	77.3%	88.8%
⑩情報講座、授業、ノーメディアチャレンジ等で、情報・モラルに関する意識が高まっている	84.2%	69.9%
⑪自他の命が大切だと考えて、交通ルール・マナーを守り、事故・けがに気をつけている	96.9%	96.7%
⑫先生は授業で、よくわかる教え方をしている	89.2%	67.4%
⑬先生は授業で、「知りたい」「やってみよう」など好きになる教え方をしていると感じている	80%	63.8%
⑭先生は、頑張っていることをほめてくれたり、困ったときに助けてくれたりする	90.4%	77.5%
⑮先生に悩みや問題を相談しやすい	70.8%	55.8%
⑯都田中は、生徒が主役である	87.7%	76.8%
⑰自分の学級は安心できる場所である	83.5%	83.3%
⑱行事(天白祭)や生徒会活動、委員会や係活動に力を入れ、学校生活が充実している	91.9%	84.4%

〈職員の評価〉

## III、学校運営協議会による学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の自己有用感を高めるための手立てを工夫していくことが求められる。</li> <li>・テスト前の家庭学習の時間に、生徒によって大きな開きがある。</li> <li>・各学期の教育相談だけでなく、定期的な2者面談の機会を作りたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒主体の授業など、活躍の場が増えたら良いのではないかと。</li> <li>・生徒が「わかる・できる・好き」と言える授業改善をしてもらいたい。</li> <li>・「広く・浅く」の教育から、「好きなこと・興味のあること」を掘り下げ、オンリーワンを目指す指導への転換を期待したい。</li> <li>・日頃の教職員と生徒の接し方を大切に、何でも相談できる環境や雰囲気をつくり出しておくことが大事であると思う。</li> <li>・生徒一人一人の多様性を認め合えることが大切。そう感じられるような指導を期待したい。</li> </ul>
---	---

## IV、今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学級づくり」の中で「一人一役」等を取り入れ、お互いを認め合え、自己有用感をもてるような集団作りにつとめる。また、学級運営委員会を定期的開催し、生徒の目線から学級の状況を振り返らせ、吸い上げた情報をもとに教師側での学級経営に活用していく。「担任(生徒が指名した職員)と生徒」の2者で行う「2者面談」を年間計画の中に取り入れ、個の相談にも親身になり乗っていく。</li> <li>・新学習指導要領をふまえ、各教科における「付けたい力」を明確にした上で、教科を通じた生徒への「ねがい」(本校では「教科を好きにさせる」という言葉で共通理解している)とのバランスを考えつつ生徒の実態に即した授業を展開する。</li> <li>・校内研修の機会を設けて各教師が「教科書で教える」ことを念頭に単元を見通しながら教材研究を進めるとともに、他の教師の授業を参観することで学んだ授業技術を自らの授業に活かし、最終的には「分かる」「できる」実感に伴いながらその教科を「好きだ」と言える生徒を育てる。</li> </ul>
--

